

わたしの聖戦

◎◎女性が働くことについて◎◎55

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津江

人相と世相

すでに遠い記憶の中のことだが、「毛深い男性、眉の太い男性は気が優しい」と誰かに教えてもらった。それからずっと、そう信じてきた。そのせいか、すね毛やヒゲの薄い人はなんとなく「冷淡」なイメージがあり、おのずと敬遠してきたような気がする。

ある日、駅に張ってあるポスターに目がいった。

見るともなしに見ていたのが、段々ジッと見つめる自分がいた。それは殺人事件で指名手配されている容疑者たちの顔写真であった。心のなかで、思わず「ううむ」と唸る私。

皆、そろって眉が太い

のだ。ヒゲも濃い様子である。いずれも残忍な事件の犯人とめぼしが付けられている面々であり、中には複数の殺人を犯しているらしい人物もいた。「優しい人」と「殺人を犯して逃げている人」は明らかに別物である。

私が小さい頃、身近な誰かに教えてもらったあのことは嘘であったのだろうか……。いや、すでに半世紀近くも生きて身、何とはなしに人相の法則というものが当たらないケースが多々あることに薄々気づいていた。眉の濃い人や毛深い人が心優しく、体毛の薄い人は冷たいなどといった、ものすごく単

純な見方が必ずしも本質を言い当ててはいないことを、心のどこかでわかっていたはずだ。もしこのような決め付けが本当なら詐欺事件などもっと減ってもいい。

改めてウオントッドのポスターを目にし、あま



日々残酷な事件が起きる。

るが、40歳になったらそろそろ内面が顔に表れてくるといふ教訓を含んでいると聞く。しかし、これも自分が40歳をとつくに過ぎた今、わが身を振り返っても周囲の同年代をそつと見ても、しつくり当てはまらず、空々しい思いに駆られる。そもそも、今の人は幼稚化が著しく、暦年齢に0・7をかけた数字が実年齢だともいわれる。つまり、40歳なら昔でいえば28歳程度の人間性しか持ち合わせていない

ということである。短絡に現在と過去を比べることにはどれだけ意味があるのかわからないが、確かに長生きになった分だけ、人々の進歩もゆっくりとしたものになっている気がする。

日々残酷な事件が起こ

る。いったいどんな面構えをしているのか見てみたいと思うのは自然な感情だろう。だからこそテレビの画面に釘付けになり、顔写真が出ない未成年者はいち早くネットで写真が公表される。目を覆いたくなるような事件と、その犯人の顔とが印象としてうまく合致しないケースは多々ある。コトを起こした人の内面を顔という表面から読み取るうとしても、所詮無理があるのだろう。

私は九州出身だ。西日本には目鼻立ちのくつきりとした、全体に毛深い男性が多い。くだんの人相学を私に教えてくれたのも恐らく九州の人間だと思う。もしかしたら「九州男児」という郷土自慢だったのかもしれない。単純な法則が吹っ飛んでしまうほどにこの世は複雑化し、人々の心は荒くれ立っているということなのだろうか、ふと思ってみる昨今である。

イラスト・三浦義雄